

市指定文化財（有形・彫刻）

昭和42（1967）年3月20日指定

所有者 念仏堂

木造阿弥陀如来立像

この念仏堂の開基は不明であるが、墓地に慶安4（1651）年の墓もあることから創建年代はかなり古いと考えられています。元禄年間には江戸神田の高麗屋佐次右衛門という者が観音堂の寄進をし、また、芝増上寺住持となった祐天上人の教化によって、浄土宗の寺院の形を整えたものと思われます。しかし、その後は信者が集まって念仏を唱える堂となって、現在に至っています。

堂内に安置されている阿弥陀如来立像は寄木造、平安時代末期前後（12世紀頃）の作であります。端麗優美な仏像で美術的にも優れており、専門仏師の手になるものと考えられます。縁起によればこの仏像は当地の善光寺という寺にありましたが、寺が廃絶し、一時小金の東漸寺に移されたものを、高麗屋佐次右衛門がこの堂に納めたといわれています。

墓地内には、慶応4（1868）年の戊辰戦争の際に海神で戦死した福岡藩士らの墓もあります。



木造阿弥陀如来立像

船橋市教育委員会